

トマト灰色かび病が増えています

トマト灰色かび病は、3月中旬の巡回調査では、発生ほ場率、発生株率ともに平年より高くなっています（図1・図2）。果実だけでなく、葉先枯れを起こした下葉や葉柄にも発生が見られました（写真）。

気象予報によると、今週後半から曇雨天が続く予想となっており、灰色かび病の発生に好適な条件が続くと考えられます。

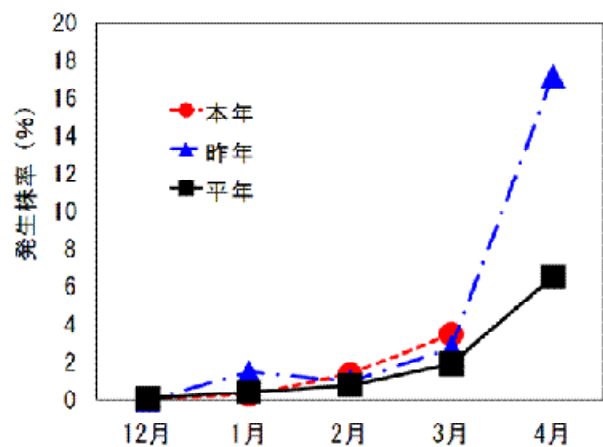
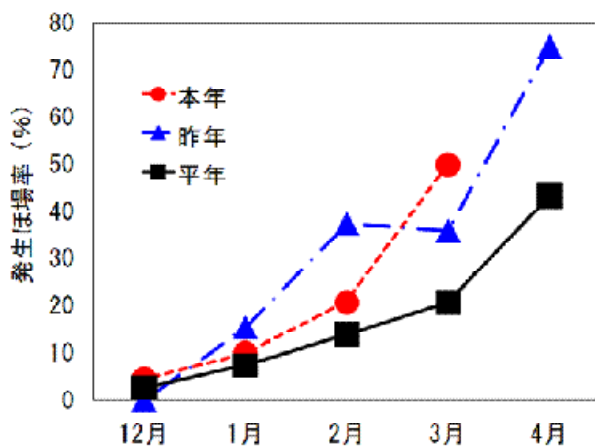


図 1 トマト灰色かび病発生ほ場率の推移 図2 トマト灰色かび病発生株率の推移

防除対策

- ・ ハウス内が多湿とならないように、換気やかん水に注意する。
- ・ 循環扇や暖房機等を稼働し、植物体表面の結露を除去する。
- ・ 咲き終わった花弁や発病果、下葉で葉先枯れを起こしている葉などは伝染源となるので速やかに取り除き、ハウス外で処分する。
- ・ 発生初期に薬剤を散布する。

表1 トマト灰色かび病に登録のある薬剤（平成21年3月16日現在）

薬剤名	希釈倍数	使用時期 / 使用回数
ゲッター水和剤	1000～1500倍	収穫前日まで / 5回以内
フルピカフロアブル	2000～3000倍	収穫前日まで / 4回以内
カンタスドライフロアブル	1000～1500倍	収穫前日まで / 3回以内
セイビアーフロアブル20	1000～1500倍	収穫前日まで / 3回以内
トータレックス顆粒水和剤	1000～1500倍	収穫前日まで / 3回以内

詳しくは農業環境指導センター (<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/>) までお問い合わせください。

Tel(028)626-3086 Fax(028)626-3012